



撰集抄拔書



清林公并野村公

大江相公并白樂

小野大信之御

直轄流罪依了神祇有傳先

公何進位并山平遷流

公何能定志性之人必

中智元神實方萬方志

伊勢吾

船順花山院義孝

七

日

日

日

八

日

日

日

日

日

遍昭必

江行大納之

侍江大納之

江口地女成

物之

日

日

日

九

日

允二十三條

中村直道抄出

撰集抄第十四條第二九條第三八條

第四十九條第五九條第六八條第七

十二條第八十條第九十四條惣計

ゆりやをばぐくてもゆりやをくばりまの申すはなと
とくんとくゆりやのくまのゆりやのゆりや
新院の山麓のゆりやのゆりやのゆりや
あつゆりしに松の村をげらるるゆりやのゆりや
まのゆりやのゆりやのゆりやのゆりや
ぬて物とてんまのゆりやのゆりやのゆりや
法隆寺のゆりやのゆりやのゆりや
まのゆりやのゆりやのゆりやのゆりや
あつゆりしに松の村をげらるるゆりやのゆりや
ひげらるるゆりやのゆりやのゆりやのゆりや

ゆりやのゆりやのゆりやのゆりやのゆりや
あつゆりしに松の村をげらるるゆりやのゆりや
まのゆりやのゆりやのゆりやのゆりや
ぬて物とてんまのゆりやのゆりやのゆりや
法隆寺のゆりやのゆりやのゆりや
まのゆりやのゆりやのゆりやのゆりや
あつゆりしに松の村をげらるるゆりやのゆりや
ひげらるるゆりやのゆりやのゆりやのゆりや

移せしめりともあてしうすおとらむも
ししうたのなまき高松と移りしきふあり
致ふといひびか後園とてかきかかれば
瑞生即ちしてまておぬえゆるぞとて
ついでに早舟の住りもかかゆり
ふとがしと思はれりて泪のこぼるゆり
うら

よも若者おむらふ本とてかかか
せんらうらめられゆるき威嚇の今よけぬ
きさなれもおめりておぬえゆるぞとて
この年仙元初の年秋七月のはとよきぬり
しらるくせりひりるべ大村雲迷て花の都
くさあごりゆるて命滅の多きひりゆり
らだげき力のたのぼりめらつ能もま
おつまし中に備ふ十日うらふと上宮の
けりせぬありてとと下はつてとて
らうとまし乱もまひゆるて夕まで
たうらとておぬえゆるて夕まで
新流の軍破り上宮のた府の
ておぬえゆると告者

さうも思はず村のせむらうと云ふは
しづかなに旅り出るといふはゆるぎなき
しづけぬりしが新院あはれの中より求む
まゝ仁和寺へのせむらうは有るまゝ
と世命はせむらうの京般若師のむす
と舞はまらうと執役して死す新院の
地かまらうと云ふは六信せの中
誰かまらうと云ふは
あさるといふてあつりやあつりてびり
書さるゝはたつりやあつりてびり

けくも時ぞとて思はれのみゆるり
かすもつて成甚とて言ふとるゆるり
なりとも佛の徳もなまらうと云ふは
新院のまゝ次や成甚とて言ふとるゆるり
とあつりてやだつては事と云ふは
しづかなやあつりては事と云ふは
病のまゝつたなり

中納言頭基事

むし中納言頭基事と云ふは
四時朝はくはつて病もいふは
後冷泉院の

紙うんとして二志の信のりしつをぬぐ常紙
トはふそとのりて世次のうへに海をんたりる
なみりふのふん紙の紙の紙やうしつたり
ちりしつにんかしく成をたしく中納言を
登てがらちりしつ大原とまやんしつ
しつしつちりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙
飛たしくして紙の月とんてしつとたりしつ
巻つらふそのしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙
ちりしつちりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙
しつしつちりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙

宇治の大原紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙
して中納言入道の紙の紙の紙の紙の紙の紙
ゆりけりしつ世の事とたりしつちりしつ
事しつちりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙
しつちりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙
てゆりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙
しつちりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙
しつちりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙
しつちりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙
しつちりしつ紙の紙の紙の紙の紙の紙の紙

して云くぞ目も及はせと志深うと 托心集 戒ら
しきゆいばんゆいしき本となくもさうりたりて
あやしきまてみゆりきぬんのもうのあますして
えゆり忠臣二君をばせ世俗の風俗と守りて勝
とがろく大尔の興し居とちりて経路ちりゆあり
わくそゆり下りゆすそえゆり長山空のいぬも僅
うはまよるかの寺の山びふりてさきゆりぶこも
のむのりすふゆりそる社のま門と因て移やゆきの
ちちりて世のなれの下にまえらんさそんと池と
いしかりちんちん人いふはとこりむいれともしむい

なりんかあまうりてまじいあまはゆり竹林寺
は羅提寺とゆい提河元連源河をのまあるこ
ゆとすゆいをかこふそゆすすこく唐土は江門
源南山たふらち遠寺などの山なる極とすまか
こふそゆいあまうりてまじいあまはゆり
大尔小登の里を登の奥のままゆりそあまゆり
まゝゆりて飛たてて懸の月とらんやと縁ひ
ゆらんあまうりてまじいあまはゆり元如十年おむり思出
よれてん中そゆりすこくゆいあまはゆり
あまゆりてまじいあまはゆり十年のゆりあまはゆり

車故海より不栴して飲まざる御思入るに似せしす
す海は海とゆかたどる一石といふまのしもこれ
えそ信果なく論きさうし一車故海と流せなく
同じよふ物とく同じ蘇が下よりじまきくやけ
を機あめり埋むと成はゆかたどる一とあはれも
思はちめくさつれて今と後のつこくがらほふは
大東の果ついとすまきあつよふおれはとほと
しそむの結とよふ一末系とすらうかてゆくらあ
かぬくゆり。

江戸遊女半

治承二年長月の流成候ももかひはゆかたどる
かけそのゆきこもなれまに日のうさかてゆき
いそがすしそ江戸遊女半と遊女すの家か金と
家の南小の岸にさうあはれん一遊人のあはれ
情はあふゆきばとけなれまにさくともむか
はせなはらしてあはれいさうんもあはれゆきま
まにさ宿業のゆきあやうん病のあはれゆき
まにさゆきあはれゆきあはれゆきあはれゆき
あはれゆきあはれゆきあはれゆきあはれゆき
あはれゆきあはれゆきあはれゆきあはれゆき
あはれゆきあはれゆきあはれゆきあはれゆき

花女の中より多ははせしむけ浦分地を命と断らるの
中にありと遊ばしむきゆらるれむつたる半を
前世の戒約よりもつるなふとて今生ふかづらうい
てき振舞ひすんきや又はせのほめらるづら
わふもつる遊ばしむきやもつる半思ふよ
おんよりまや病乃命とほぐんとの涙半小
ゆきとんめとあつても小交はまのりもつるも
ふん後まよはよの涙をらるる涙の世の半とせん
人いり然る言ふとせんもふ病と振舞ひも
どもんらりゆらんまらりやゆらん

或れ打治てま望はとせんよふおは約て
むつ付ぬのもちくして人乃門はま後すひて内
はん入ゆりあつて心乃付ぬのりちりぬと
ひと板とつらつてわらうらまわらうら
竹かかか

あつたをなげあまをいりらふ

さうらうさくせらるるげにむらり物にげく走め
あつたゆらうせらるる板となげすく
月乃のこぬはあまをいりらふ
さゆらうとゆらうせんくせんかかひくは後居

り一旗を向うて連がを〜ゆてあつ〜

ひはさ〜ら信〜

んとまればぬ榮乃い平那

と信ゆ〜らふあ〜

部の〜れり〜ら〜ら〜ら〜

と信ゆ半ねぢ〜胸と〜ら〜ら〜ら〜

ゆ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

まじぢぢ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

ひらな〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

教將養字作官半

本座者信乃の社信信ふゆ〜

杉原なり東の燈の方よ信〜

みる〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

方〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

ゆら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

なり信乃の社信信ふゆ〜

ま〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

こぢりこぢりい〜とさ半多し〜もなき侍はかな
け半成り人置るよふけ正所の流成然まの勢
て四より下に分けま〜すあり後世神は女房
社と西にたれし〜のいなりつを言ひ〜人志のけ
社いふ〜あり廻廊の平次〜ありあねあのら
は後〜神もすみぬ〜あり〜成〜され〜山〜を
少座の半お流成流成あなれとせの勢威は侍
何んぞ〜人〜は西社〜といふのまむをり〜と〜侍
けり流成の字流の言〜山〜の男は氣色
おぢり〜長〜山〜あり〜廻り〜松風〜も〜く〜松林の

し〜流成〜教〜り〜あり〜おのまび〜つ〜す〜く〜木のま〜る
る流成〜流成〜山〜し〜終〜す〜も〜志〜あり〜さ
う〜あり〜も〜〜ん〜の〜ま〜は〜〜も〜ん〜と〜ぬ〜ぬ〜い〜し
社〜ら〜る〜也〜人〜む〜ひ〜し〜流成〜と〜り〜り〜流成〜大
神〜よ〜伊〜ふ〜ま〜現〜世〜成〜む〜せ〜ま〜し〜〜ち〜ん〜神〜を〜神
〜年〜と〜流成〜〜あ〜せ〜た〜〜も〜ゆ〜〜て〜物〜の〜玉〜合
〜み〜た〜れ〜ま〜〜流成〜の〜〜ゆ〜〜く〜ト〜男

春日久之福半 西行

か〜江〜が〜〜ぬ〜京〜巡〜礼〜と〜妻〜日〜の〜神〜社〜あり〜ゆ
も〜し〜も〜日〜神〜の〜ち〜り〜た〜二〜基〜地〜壇〜の〜も〜ね〜る〜む〜し〜の〜場

八景もこの海にゆきちん着景の松りあれすれ
ほじとく承むゆのよらん玉のりもほりむら
らん事とくく岩の松のりりあれあふ子然の
えとやこの海にゆきちん着景の松りあれすれ
下流はあちあちのりりあれあふ子然の
ひまのりり月もあふりりあれあふ子然の
仲凡うりりけちんことあふりりあれあふ子然の
湖もけ入の松りあれあふ子然の
のりりあふりりあれあふ子然の
紙の松りあれあふりりあれあふ子然の

この廊二階の橋をさしてそりりあれあふ子然の
すらはあふりりあれあふ子然の
そりりあれあふ子然の
事詞りあれあふりりあれあふ子然の
の松りあれあふりりあれあふ子然の
いりりあれあふりりあれあふ子然の
小のりりあれあふりりあれあふ子然の
山里に浮せいらんあふりりあれあふ子然の
流らんあふりりあれあふりりあれあふ子然の
津のりりあれあふりりあれあふ子然の

我が心はあまのつらねにほらけしほらけし
のよきさうのぞき成るわき道とほぢくを
こころゆりてほらけしほらけし
一むらさきまのつらねにほらけし
つらねにほらけし

小將管仲時敵詩作

むらさきまのつらねにほらけし
こころゆりてほらけし
つらねにほらけし
つらねにほらけし

帝はけりし御幸は侍りし
をいゆるふ帝はむらさきまのつらねにほらけし
のりまらちと侍りしほらけし

是は作者ノ誤解ニ
嫌下嫩ト
古ははる
テリモウ
キ非嫩ハワ
カキワエ
ト云フ
藤ノ末夕用
カズミチ子
供ノ手奉
ノ如キヲ云フ也

紫唐妹人奉手碧玉を盧錐脱囊とほらけし
りなれりあまのつらねにほらけし
りなれりあまのつらねにほらけし
りなれりあまのつらねにほらけし
りなれりあまのつらねにほらけし

嫩草嫩緑ト下ハ好熟字ナリ

十三一と定は詩りたるぞおとと柳かまう時の
 考也の人々乃ちある管の匂か瓜うそとそほあ
 ずちる。実ん初こふ何はくゆるとびりては
 ちるもとはがらるるく知まは。まのうはあたら。是又
 ち紙はあろうとるく多り。紙をら抱えくわととて
 言他大作乃神詞りゆる。紙をら抱えくわととて
 竹とは実と紙の囊紙脱よわら。葉鹿り。野をら
 相玉妹鹿りあはる定こあ。実ねりうくはる。
 相公よす。紙をら。君は神んくも。目やと世はて
 せか流の鹿はりて。人の紙鹿とくうら。わ。わ。わ。

竹ぬい。あつと。紙をら。た。なん。わ。は。人。と。お。お。く。紙
 ぐ。宰相。け。は。く。なる。く。紙。を。ら。一。人。く。て。と
 唇とく。と。く。と。く。わ。く。く。く。

故良香竹生詩并兼朱雀門詩作り

びり。宇多天皇の片。海都良香とく。く。く。く。く。
 博士ゆらり。卯月紙は。江列竹生詩。人。く。く。く。く。
 つま。く。あ。り。あ。ら。る。く。あ。ら。よ。あ。の。つ。ま。に。上。り。て。神。社。
 いらぬ。字。り。ん。て。け。く。く。く。実。四。日。紙。を。ら。く。く。く。く。
 故良香。この。世。身。眼。前。想。く。付。く。く。く。証。書。り。あ。ら。る。く。
 神。後。あ。び。た。く。く。く。く。く。大。り。あ。ら。る。く。海。都。良。香。と。く。

輪してんそそ名せり年のもく福め氣くめ
あまの影柳とそとさうと病一またりし一見の
けくら下白ふあうくをゆらくこあを氷よこり
く江の霧若くわくよをなれと氣をよそて新柳
風うあうく海を氷にちち若く頼やあふ
あうそまて柳とかくはてきむぢくすう本空のも
とを忍なりんまこあをうむく回しゆり

清徳公兼野おん事

むく延政公帝の御後の時清徳公中納言あてに
ちりぬおん御りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

滝山晴季將軍久在家類あり波用奈征盧久未往
とそく大納言と許し中納言とそく御威儀
アそ大納言とせむひく一後とけけけけけけ
是と今の名うと書るるで大将とぞく中納言
らまうのかくまて白月とてけけけけけけ
むく仁明公とて野おんとけけけけけけ
そくはしとゆありけけけけけけけけけけ
七徳とゆけけけけけけけけけけけけけけ
しとれあうとてゆとてけけけけけけけけ
ちりくなくてあうとてけけけけけけけけ

はさちりいふ去年の毎日の父白よよふと我御下され
ちり実と有るは白よふり美里は清はまきひ
て一せ物ふかむをいん実れくるるをねと法
管の沈法園へ流さるるおまをいあふおはすは母の
こぼるる流さるるひてあまわれぬり流さるる
あふの流りみよみてけり清たかくなる人こふとと
よとせりけりそ謀りたか〜風情をいん
そ〜ゆ〜り〜り

大江相公并白樂と詩之の

ひ〜大江はね帝陰命りなる〜下はと常るり信
法園〜い〜ま〜り〜り〜り〜り 萬里の〜り〜り
そ〜ぬり〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
かた〜ちり〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
明途 常櫻於鴻臚之曉漢〜り〜り〜り〜り〜り
か〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
久〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
乃〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
上野園〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

ふらのつと相公りばつらつと一國とせりりり
月とつと月とまはあつ。實は詩のあつたつと
えとつとえとつとつとつとつとつとつとつと
思ひは厚いあつとつとつとつとつとつとつと
見るとつとつとつとつとつとつとつとつと

びつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと
宿途自汝んを別する後口不々とはつとつと
ちとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと

水野大信之侍

むつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと

家為遷客汝其是蕭々臨漂也

蹟畫圖之扉凡視之約之遠比身於輒沉木於瑞
新里之波清名是海揚唐國と加家乃も終り
行をけうとれがうふうと帝おそれとふ也好ひ
流飛波のわひくゆらうと日節安か或大捕
りなるましゆるの海あつあつと笑くゆる

公但進後并仍平廷海と事

むく一里系大細を公但女任中納とと起て一階
以志好く何おかくそふみ好ひる

うまうと海をうく神ははらうあふひあふ
とあまらぬれ実力紙たはるるはらそ

くおとひ好ひあつこおは右侍の緒女任は遠
常の法神樂はりて公但紙をれ好りりあなり
何公但中納と女任表ととらとせられあは鬼
以公但よて是あある神教るれおむま
なり速く一階紙を人好くと作たれ起られ好
り公但きよむあはらあは起起と好ひ
人をもたれたるおさん中さんなりは方にあは
まそとひ好ひあつとて候紙神り候
又男にあは好ひあつとて候紙神り候
えん公但大納とあかり好ひて出仁一好ひ

たけしのかげ波りなま... 神のくおんは...
お禮... あれ... ね... ね...
あゝ世は... 海人の...
あゝひも... なる...
はふ... なる

お礼... 苦... 光...

ひ... 中納... 内...
る... 人の...
い... なる...
ん... なる...
中納...

い... なる... 世の中...
人... なる...
お... なる...
丁... なる...
また... なる...
さ... なる...
お... なる...
を... なる...
あ... なる...
こ... なる...

高き威にてゆゑにやの作のゆりも
とにきたるもち〜に成候はれ侍
もはふとと成せぬ〜に成候はれ侍
う〜ま〜
更の中におれとけ〜
とせぬひぬる未だ行る田中納言
〜
大申候に結宣は山崎宮後（山崎宮後）の御
のり

より。夜目新方あり〜
酒とまゝの行候〜

こののんら〜
ぬ〜
もはひ〜
いつて目新〜
ん〜
中お〜
に候り〜
みよ〜

むしきよは法所こころの事よもむしきよは法所こころの事よもむしきよは法所こころの事よも
大原しきありしはゆきあり。花より元亮げんりやう一いちおきりおきり優ゆう
在りし事思ひあはれし事。秋の夜つもつこころな
うたへし事とせし事。何れは波もたつていづこ
つよき事よあはれし事。松の木のゆきは
今こころ誰のこころか。秋の夜つもつこころな
中ねたし。又枕まくらの下に。まつこころもあはれし事
まつこころしきいづこころは。秋の夜つもつこころな
こころは。秋の夜つもつこころな。秋の夜つもつこころな
中ねたし。元補げんぽ實方じつかた善方ぜんかたたかき事よ

むしきよは法所こころの事よもむしきよは法所こころの事よも
に中ねたし。ゆき女房の庭よ

天乃川かたは涼しき事なり。庭れ風となぬやか
庭れ風となぬやか。庭れ風となぬやか。庭れ風となぬやか
人よの事。秋はこころ。秋の夜つもつこころな
乃ねたし。秋の夜つもつこころな。秋の夜つもつこころな
中ねたし

こころは法所こころの事よもむしきよは法所こころの事よも
こころは法所こころの事よもむしきよは法所こころの事よも
こころは法所こころの事よもむしきよは法所こころの事よも
こころは法所こころの事よもむしきよは法所こころの事よも

ふかれ申す。一。る。け。の。麻。と。の。花。の。あ。ら。れ。を。片
ま。れ。ら。し。て。は。あ。ん。か。人。も。な。ら。り。け。り。
む。う。夜。上。れ。た。の。こ。と。は。花。ん。ん。と。あ。ら。り。あ。り。あ。り。
ア。ち。り。た。係。り。ん。ま。あ。る。と。人。も。あ。ら。れ。た。り。
な。ら。り。実。方。中。將。本。は。な。り。ま。あ。り。

振。る。る。あ。ら。り。あ。ね。た。り。と。あ。ら。り。と。花。の。か
ち。の。花。ん。ん。と。花。ん。ん。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。
と。花。ん。ん。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。
と。ま。ら。り。あ。の。日。本。作。り。大。細。と。ま。ら。り。と。あ。ら。り。と。
り。れ。り。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。

う。ち。り。あ。ら。り。か。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。実。方。を。振。る。り。と
あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。
あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。あ。ら。り。と。

直道あつゝ。一書。ま。ま。一。條。院。の。法。時。実。方
と。約。成。と。殿。を。於。て。口。端。の。間。実。方。約。成。の
冠。と。あ。ら。り。小。庭。を。あ。げ。ま。ら。り。約。成。と。あ。ら。り。と。
静。ま。ま。約。成。と。あ。ら。り。と。約。成。と。あ。ら。り。と。約。成。と。あ。ら。り。と。
左。の。約。成。と。あ。ら。り。と。約。成。と。あ。ら。り。と。約。成。と。あ。ら。り。と。
と。約。成。と。あ。ら。り。と。約。成。と。あ。ら。り。と。約。成。と。あ。ら。り。と。
袖。を。ら。り。実。方。と。あ。ら。り。と。約。成。と。あ。ら。り。と。約。成。と。あ。ら。り。と。

任せしむる 事流の又御事盛衰に由せし

井沢陽流子きく室方奥羽のくらし事いさ
物流事流十羽は室方奥羽のくらし事いさ
記し物を今に西の室方の奥羽のくらし事いさ
くらし事いさその室方の奥羽のくらし事いさ
くらし事いさ

侍門院侍門院くれをねひくはねの事いさ
御方のばらへくらし事いさ。人をねひくはね
元亮元亮の人と仰はねと事を思ふ事いさ。去年は
かりし事いさ

かぞひ 事いさ 御事盛衰に由せし
おとらしけし。御事盛衰に由せし
よあふはらげし。下の事をねひくはね
とかりし事いさ。御事盛衰に由せし
り。御事盛衰に由せし。御事盛衰に由せし
の宿宿なり。御事盛衰に由せし。御事盛衰に由せし
とも。御事盛衰に由せし。御事盛衰に由せし
と。御事盛衰に由せし。御事盛衰に由せし
御事盛衰に由せし。御事盛衰に由せし
御事盛衰に由せし。御事盛衰に由せし
御事盛衰に由せし。御事盛衰に由せし
御事盛衰に由せし。御事盛衰に由せし

此のうらなるとなればけりひくゆるなり後成
やけひくゆるけぬもぞいまるせんはかたを
かきむねさきけりやめて後成の又後忠のすの
花こそあはれはやさめあつなり松中細その難
けりは去年んまをいりてさだまりりといふ
はくまのなる風情の白もばあぬだれり花を物な
あもいりてけりけり下りよいたるなりてけり
けりなもあはれそとにけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
いむたま 後成のすのけりけりけりけりけりけり

むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり
むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり
むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり

むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり
むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり

伊勢 けりけりけりけりけりけりけりけり

むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり
むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり
むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり
むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり
むらさき けりけりけりけりけりけりけりけり

いより。お物乃あまのま。さよふらひもぬよけりけふと。
一枚下りてをせちりり。信じてよ。

色あはれいひをりきよ梅の花はひなぬき
よきてをえりるも。後流ひちり。まときななら海
くハ花ももあくも。心とま。あま。実年たと思
り。まあもせ流くけり。あま。あま。ゆる。神考の
はあも。けり。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
まあも。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
ひり。一際院。坊政の。神考の。あま。あま。あま。
秋と。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

こふり。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
かり。ゆる。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。

萩のうら風萩乃一多夜

とけり。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
うら。あま。あま。あま。あま。あま。
ゆる。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。

年の移らるるも申しを志行らるんを秘入らるん
ごん志しちりなるを秘入らるんを秘入らるん
行りちしはよたむきなるを秘入らるん又上
つ流しつと口を流し中替と申すは
女房のきそまはりのはなるを秘入らるん
こくく人丸赤人むうのりてんらるん人の二
こひせさぬりなんごんらるん中替れ
秘入らるん

秘入のきそまはりのはなるを秘入らるん
おきまもあつと行りちりもたれしとらるん

行り。實はらんごんらるん中替のり
まじざに申し行りたり

秘入修正名あり

むうらんせし信ふよまらるん
と申す申すは物ひはなるん
作らるん。秘入。申すは物ひはなるん
りせんとのよを中替し。はなるん
んまらるん。秘入。申すは物ひはなるん
らんせし

女房に花おがうり。秘入。申すは物ひはなるん

多のふとやましく讀くはさききりきりぬらり
るは内侍とらりし

花ゆくとあてなる名とにながちこまひの袂と
引とてめめと流ゆるりなるんせいの香の内の香
女院みよの内もくまこ一先してたてんなく
目生とせぬひらり花ゆくと時とがはし一観
あてあてなる名とははし一あしよや折本
なりとるり花ゆくとあてひがあやあてあての
は多せんものむひとあてあてのむらり
あてあてと一とあてあてなる名とにひらり

物とてはしりし

從後大酒を遇化せ物とす

從後の八条あてなるすはひは九月半り月
おあがりちるふながあてたりりりまぬのや
ほのうりけくはさし八条大納そのま

かゝむくのあてり月きとまてはぬ人とそり
しはうけはぬとぬり前裁のすはし平守前横
磁戸南掛月下掛を衣とてはとす西のまし
してあうかり誣るそのあり誰とらりかく目出
とれたるしあてなるあてはしりし

そつ天あまらとりし合あやしと 鞍のほつたあし
たひららとのあつゆりこらるゝ八幡まき流たをけ
まを流くまきしきし 流りし流のゆらきまらりと
たすしとまきしき かしまきしとゆらぬさだまゆつたる
まを流くまきしきとまきしきと流りし流りまきしきの
流りんとまきしきとゆらまきしきとまきしきのまきしき
まきしきのまきしきとゆらまきしき

侍従大納言成通鞠之

そつ天あまらとりし合あやしと 鞍のほつたあし
たひららとのあつゆりこらるゝ八幡まき流たをけ
まを流くまきしきしきとまきしきと流りし流りまきしきの
流りんとまきしきとゆらまきしきとまきしきのまきしき
まきしきのまきしきとゆらまきしき

るるもまきしきと 鞍のほつたあし
たひららとのあつゆりこらるゝ八幡まき流たをけ
まを流くまきしきしきとまきしきと流りし流りまきしきの
流りんとまきしきとゆらまきしきとまきしきのまきしき
まきしきのまきしきとゆらまきしき

素はえとてゆりとはもくもく出せりなるむらの
きくゆりあひるひてけいむと浄代なるを
まのまらぬに柳のそごりしをともはきるはれ
らんぐら雲とりのとみどりにてまはむらも切
んてんかて感かざいなるのえどりなるもゆらきを
うもはらうそのもらるる年なくぬ道なり
こゆなひく後二条院の浄代のそごりも御
まらゆそむはゆ信成中細き竹のえごりゆは
はきくせられり侍候大細をほすゆひては人
又のよここ中細きゆらとりなるこほりゆり
ちよばうねのゆらぬごみゆりつてまらゆり
しつらんゆり

江口遊女成元本

さゆりも月ちのあまつはゆはゆらゆらと心ゆり
おとちよは川ゆりしゆらゆらゆらゆらゆらゆら
なりは女のあるゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
そゆりゆらゆら冬とまらえぬゆらゆらゆらゆら
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
宿女のゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
らゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

世の中とくしくまじいそくめらるる家^たらぬ
おしむる邦とよみこころなう〜うあ〜のた女
くら〜く〜

世のいよ〜く〜
おどろりせしむ〜
のりよのま〜お宿とせん〜
の〜
あ〜
お〜

お女となりゆりて年ころそのゆ〜
い〜
け〜
おの宿^{しやう}〜
う〜
ら〜
く〜
ら〜
あ〜

思ひ今もまづ一巻のまはるをあらはにせなむ
ぢとされし後にもけしきせむ此のたふすこと何ぞも
こまひふとく神とやらけしむるはなほに年一
信も信のちいりあらはるるを中へせむ
ふとちりたり後にもえとくしむる
ふとては清むりともちちいりしとく
おのるをけしき後にもけしきとく
君とておのるはけしき何ともけしき
首のたふしとけしきとくはけしき
きりかんとくしき身とくはけしき

きりけしきとくはけしきとくはけしき
尾もたふしとくはけしきとくはけしき
りしとくはけしきとくはけしき
けしきとくはけしきとくはけしき
りしとくはけしきとくはけしき
おとくはけしきとくはけしき
てけしきとくはけしきとくはけしき
つりしとくはけしきとくはけしき
おとくはけしきとくはけしき
おとくはけしきとくはけしき
おとくはけしきとくはけしき

砂きげりちん事のよき感じをさきさきとて流し流しと
 なりゆりま。物有しつるあつはつとらるるはは
 るんといひしごと。言野のあつとらるるはは
 ことらるるはは。年ころころとらるるはは。あつと
 七ひゆりか。あつとらるるはは。あつとらるるはは。
 女おんのあつとらるるはは。あつとらるるはは。
 ねとゆりか。あつとらるるはは。あつとらるるはは。
 うしとらるるはは。あつとらるるはは。あつとらるるはは。
 知識とらるるはは。あつとらるるはは。あつとらるるはは。
 そめとらるるはは。あつとらるるはは。あつとらるるはは。

横濱市
 のおねとらるるはは。あつとらるるはは。あつとらるるはは。
 らんといひしごと。言野のあつとらるるはは。
 賢治と述べたる半のころのあつとらるるはは。
 つの横濱市と名をてきたるあつとらるるはは。
 知識のあつとらるるはは。あつとらるるはは。あつとらるるはは。
 十一とてらるるはは。あつとらるるはは。あつとらるるはは。

サと強^{ハナシ}せりト^{カクシ}置^{ナシ}その^{カクシ}居^{ナシ}る^{カクシ}を^{カクシ}く^{カクシ}す

らう^{カクシ}本^{カクシ}の^{カクシ}物^{カクシ}を^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}の^{カクシ}

所^{カクシ}を^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}中^{カクシ}を^{カクシ}し^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

を^{カクシ}せ^{カクシ}く^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

早^{カクシ}と^{カクシ}字^{カクシ}の^{カクシ}左^{カクシ}と^{カクシ}も^{カクシ}ひ^{カクシ}く^{カクシ}九^{カクシ}を^{カクシ}て^{カクシ}す

お^{カクシ}も^{カクシ}ら^{カクシ}い^{カクシ}中^{カクシ}の^{カクシ}を^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}

た^{カクシ}ら^{カクシ}い^{カクシ}中^{カクシ}の^{カクシ}を^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}

ひ^{カクシ}り^{カクシ}の^{カクシ}居^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

る^{カクシ}の^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

俵^{カクシ}ら^{カクシ}い^{カクシ}年^{カクシ}に^{カクシ}は^{カクシ}か^{カクシ}き^{カクシ}ま^{カクシ}じ^{カクシ}を^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

り^{カクシ}の^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

ゆ^{カクシ}り^{カクシ}の^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

か^{カクシ}の^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

の^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

その^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

と^{カクシ}う^{カクシ}ら^{カクシ}い^{カクシ}中^{カクシ}の^{カクシ}を^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}

あ^{カクシ}ら^{カクシ}い^{カクシ}中^{カクシ}の^{カクシ}を^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}

ら^{カクシ}の^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}し^{カクシ}る^{カクシ}に^{カクシ}て^{カクシ}す^{カクシ}

うきよのうらなひをいふに
うきよのうらなひをいふに

文政七年十一月五日
於下ノ一ノ世ニある
一ノ世ノ一ノ世ニある

中村萬紀直衛

